



病院長  
新家 眞

# 新年のご挨拶



新年あけましておめでとうございます。去年の冬は暖冬でしたが、今年の冬は平年並みで、観測史上初めての11月の積雪も単なる気象的偶発事象だったようです。平成29年(2017年)は丁酉(ひのと)の年です。十二支の酉を覚え易くするために鶏のトリを重ね合わせただけで、別にニワトリとは本来関係はないのですが、同様に利を「取り」込むという語呂合わせで、商家では古来より商売繁盛の年と考えられております。酉の市(11月一の酉の日に行われるオオトリ神社のお祭り)では、商売繁盛の縁起物である利を「とり」込む熊手がシンボルとして売られている事はよく知られています。東京には酉の市で有名なオオトリ神社は2つあるようで、台東区千束の鷺神社(鷺・サギ・ではありません)の酉の市は樋口一葉や広津柳浪の小説にも出てきて、下町の晩秋の風物詩として有名ですし、目黒区碑文谷の大鳥神社(こちらは読み易い)も同様に酉の市を大々的に行っていることで有名です。双方とも1200年以上の歴史を称し、且つ日本武尊を祭神の一柱とするなど、何れが本家なのか分からなかったのですが、鷺又は大鳥神社は全国に他にもあって本社は大阪府にあるそうです。東京都であれ病院であれ学校であれ、経済には無縁でありようがないですし、鷺神社であれ大鳥神社であれ日本武尊でも誰でもよいので、皆が是非ご利益に預かりたいと思うのは尤もであります。

さて、当院では平成28年度事業の大きな目玉として、4月1日から「心の健康チェック事業」の柱であるメンタルヘルスセンターの活動を開始しました。現在の所、精神科医師2名、臨床心理士6名(内非常勤2)、事務員3名と結構な大所帯で、中部・北陸以北の東日本の組合員(学校教職員)の心の健康チェックを行います。元々公立学校共済組合の病院は学校教職員の結核の治療を主目的として設立されたものです。現在学校教職員のメンタル問題が大きな社会問題にもなっていることを重く受け止めた文科省が、「昔結核・今メンタル」という訳で公立学校共済組合に委託する形で始まった事業で、病院の組合員に対するサービス事業の将来の根幹をなすものですが、本メンタルヘルスセンター事業は、学校教職員のみならずメンタルヘルスチェックが義務化された(平成27年12月1日より厚労省により法制化)地域=世田谷区内の事業所も「取り」込むことになっています。当院のもう一つの職域貢献事業の柱としての健康管理科も平成28年の10月より一般も対象とした専門ドック(例えば消化管ドック等)を複数開始し鋭意宣伝活動中ですので、平成29年度には、当院の地域医療支援病院機能が一層の充実を見ることとなると思います。是非ご利用をお願いしたいと思います。更に平成29年1月からは地域包括ケア病棟立ち上げの本格的準備(模擬病棟)が始まります。

平成29年は、地域医療支援病院としての更なる充実を目指して職員一同一丸となって努めていきたいと思っています。平成29年が皆様にとっても素晴らしい一年でありますようお祈りいたします。

本年もどうぞよろしくお祈りいたします。



平成29年 元旦